

あいまいな文章を読み解く

—体験を通じた情報モラル教育を進めるために—

藤澤 泰行（川崎市立川崎高等学校附属中学校）

概要： 小・中・高校生の多くが、様々な携帯端末を通してインターネットを利用する中で、SNSなどで文字や映像を活用して相互に情報のやり取りを行うなか、文字によるコミュニケーション能力の不足から、相手の真意を読み取ることができず、多くのトラブルが引き起こされている。

そこで、「情報のやり取り」という体験を通して、ある事柄に関する事実を整理・判断して、自分なりに情報をとらえて表現させる授業を行い、学習のまとめとしてIPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」を活用した学習展開を行った。

キーワード：情報モラル教育，中学校，技術科，認知心理学，IPA，標語コンクール

1 はじめに

急激な高度情報化社会の進展とともに、インターネットや携帯端末の普及が進む現在、様々な情報機器を活用した新しいコミュニケーション能力を、児童生徒も正しく身につけることが必要となってきた。

実際、小学生50.2%、中学生の60.9%、高校生の96.7%（総務省、平成27年度青少年のインターネット利用環境実態調査）が携帯電話やスマートフォンを所有し、SNS、電子メール、ブログの活用を通して情報を発信し、相互に情報のやり取りを行っている。

しかし、文字によるコミュニケーション能力の不足から、相手の真意を読み取ることができず、多くのトラブルを引き起こし、社会問題となる機会も増えてきている。

そこで、「情報のやり取り」という体験を通して、ある事柄に関する事実を整理・判断して、自分なりに情報をとらえて表現するといった経験をさせるために、認知心理学で行われた実験をもとに題材を設定し授業に取り入れた。

2 実践の概要

(1) この絵は何？

図1のような絵を実物投影機で拡大して提示し、それが何を描いたものかを考え、電子メールで回答を返信する。

その後、この絵が何を描いたものかを知ることによって、自らの情報の認知にゆらぎが生じていることを体験する。

～発問～

5才の子供の描いた絵なのだけれど、何を描いたものだと思う？

～生徒の回答例～

宇宙人、恐竜、うさぎ、釘抜き、イヌなど

～正解～

ニホンカモシカ

(2) なにが起こったのだろうか？

ある出来事について書かれた短い文章を読み、その文章で説明されている状況について考えさせ、電子メールで回答を返信する。

その後、この短い文章で説明されている状況について知ることによって、短い言葉で情報を伝えることの難しさを体験する。

～発問～

ある人の目の前で起こった出来事です。では、どんなことが起こったのでしょうか？

「布が破れたので、干し草の山重要だった。」

～生徒の回答例～

- 動物の赤ちゃんが生まれたので、布で体を拭こうと思ったが、破れてしまったので干し草を使った。

～正解～

パラシュートが破れて穴が開き、急激に落下したが、干し草の山がクッションになり、命が助かった。

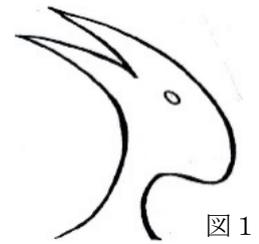


図1

(3) タイトルを付けてみよう！

ある出来事の手順をあらわした文章を読んで、それが何について書かれているものなのかを考える。

その後、この文章が何について書かれたものであるかを知ることによって、文章の解釈には様々な要素が働いていることを体験する。
～発問～

この文章に、タイトルを付けてください。
「その手順はまったく簡単である。まず、ものをいくつかの山に分ける。もちろん、その全体量によっては、一山で十分である。一度にたくさんやりすぎないことが大切である。たくさんしすぎるより、少なすぎる方がましである。すぐにはこの重要さはわからないかもしれないが、面倒なことになりやすいのである。こうしないと高くつくことにもなる。最初はこうした手順は複雑に思えるだろう。でも、直ぐそれは生活の一部になってしまうだろう。近い将来にこの作業の必要性がなくなるといえる人はいないだろう。その手順が完了したら、その材料をいくつかの山にまた分ける。それから、それぞれ適切な場所に置かれる。そしてそれらはもう一度使われ、またこの全サイクルが繰り返されるのである。とにかくそれは生活の一部なのである。」

～生徒の回答例～

- ・リサイクル ・ペットボトルのリサイクル
- ・新聞紙のリサイクル ・お金 ・そうじ

～正解～

洗濯

(4) 文章を絵にしてみよう！

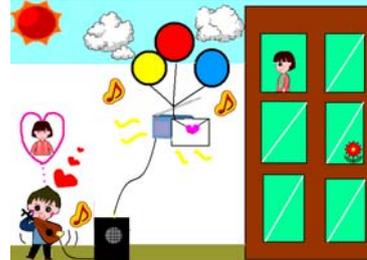
文脈のはっきりしない文章を読んで、その状況を絵に描く。(3)と同様に、文章の理解には様々な要素が働いていることを体験する。
～発問～

この文章で説明されている状況を絵に描いてください。

「もし風船が破裂したら、その音は届かないだろう。何しろすべてがめざす階からあまりにも遠すぎるからだ。建物はたいてい外から十分遮断されるようにできているから、窓が閉まっていると音は届かないだろう。うまく作動するかどうかは、電流が流れ続けるか否かにかかっているから、電流が途中で破損すると問題を引き起こすもとにもなる。もちろん、この男は叫ぶこともできるが、人間の声はそんなに遠くに届くほど大きくない。も

う一つの問題は楽器の弦が切れるかもしれないということだ。そうするとそのメッセージに伴奏がなくなってしまう。距離が近いのが一番よいことは明らかだ。そうするとほとんどの問題はなくなる。面と向かいあっている時にはうまくいかないことはほとんどないであろう。」

～生徒の回答例～ 作品のタイトル：告白



生徒の感想：
私がこの絵を描いたのは、問題の最後の文を読んでこれしか思いつ

かなかったからです。

それにしてもちょっと規模が大きすぎる告白ですよね。

(5) IPAのコンクールへの参加

この一連の学習のまとめとして、IPA（独立行政法人情報処理推進機構）による、「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」の標語部門への作品投稿へと繋がった。

3 成果とまとめ

これらの課題を通して、与えられた情報をどのように読みとっていくかによって、生徒個々の表現例は大きく変わってくる。

この時、生徒の表現が違えば違うほど、相互に情報のやり取りをする中で、コミュニケーションの難しさが伝わりやすく、生徒の理解につながるのではないかと考える。

また、標語の投稿を通して、生徒の作品の中には、授業の中で触れた注意点や、ポイントなどをうまく標語の中に取り入れた作品も多くあり、学習内容について一定の理解をしてもらっているのではないかという手応えが感じられた。

情報モラルを身につけていく上で、このような体験を多くの学習活動に取り入れ、体験の機会を増やしていくことが、より適切なコミュニケーションの手段を、具体的に知ることに繋がって行くのではないかと考える。

参考文献

- ・戸田正直他著、「認知科学入門—知の構造へのアプローチ」、サイエンス社、1986
- ・「平成13年度新産業技術等指導者養成講習会テキスト」、独立行政法人教職員支援機構、2001